

千葉中央法律事務所 ニュース

(題字・童話作家 故斉藤隆介氏)

発行

千葉中央法律事務所
千葉市中央区中央4丁目10番12号
蚕糸会館6階
電話 043-225-4567代
FAX 043-225-1507



新年あけましておめでとうござりますます

21世紀も確実に時を刻み、また新しい年をむかえました。ことしは日本国憲法施行60周年の節目にあたります。私たちは、歴史的なこの年が真に平和で民主的な日本への大きな飛躍の年になることを心より希います。歴史の逆行を許すわけにはいかないのです。60年前に日本国民がアジアと全世界の人々をつなぐ平和への決意、その原点をもう一度再確認したいと思えます。アジアをはじめ世界では紛争を武力ではなく平和的な外交によって解決すべき、港との流れが大きく発展し、歴史の流れになろうとしています。私たちは、ことしも皆さまで一緒に日本国憲法改悪に反対し、九条と民主主義そして人権をまもるためにがんばってまいります。

その意味でも、昨年暮に強行された「準憲法」ともいえるべき教育基本法の改悪はまことに許しがたいものでした。あらためて抗議の意を表しておくのです。

「格差社会」といわれる今日のこの国の社会。私たちはそのなかで苦しむ多くの真面目で勤勉な人々を知っています。司法制度の民主的な発展を目指しながら、人権を守り民主主義を目指す多様な事件活動の強化とその充実にむけて、引き続き努力してまいります。

そのためにも事務所創立35年の歴史を踏まえ、さらに新しい時代の流れを前むきに受けとめ、進取の精神をもって前進したいと思えます。所員一同、皆さまでご多幸を心よりねがひながら、新年にあたってのごあいさついたします。

二〇〇七年一月一日

千葉中央法律事務所

- 弁護士 高橋 勲
- 弁護士 高橋 高
- 弁護士 白井 幸男
- 弁護士 守川 幸男
- 弁護士 藤野 善夫
- 弁護士 中丸 素明
- 弁護士 岩橋 進吾
- 弁護士 有坂 修一
- 弁護士 馬屋原 潔
- 弁護士 井出 達希
- 弁護士 宮腰 直子
- 事務局 一同

「北アルプス燕岳」 撮影：井出 達希

めでとうございます

生涯現役で

弁護士 守川 幸男

新年おめでとうございます。
新年早々おめでたい話をしたいところですが、今の世の中あきれれるほどひどくなっていますね。そこで、投げやりになったりあきらめるのか、それとも、広い視野に立ち先を見て展望を持つのかは、性格にもよりますが、多くは人生観や学習の継続にかかっています。

「とき」の概念を認識できるのは人間だけでしょうか。「美しい」ばかりですが、「美しく齢を重ねる」という表現はすてきですね。1日、1週間、1か月、1年、10年、(中略)、60年と、節目をもうけて気持ちを入れかえる場合と、通過点にすぎない、と考える場合があります。

いつまでも気持ちは若く前向きに、ペースはわずかながら落ちるとしても、仕事も活動もスポーツも生涯現役であと数十年と、挑戦の気持ちは忘れないことにしています。今年もよろしくお祈りします。



「60年」「40年」

弁護士 高橋 勲

昨年10月より業務を開始した日本司法支援センターは「法テラス」といわれる。「法で社会を照らす」というねがいがこめられている。私はその千葉地方事務所長。「法」のなかで最も大切な法こそ最高法規としての日本国憲法だ。「法テラス」から今日のこの国の社会をみると、そこには「格差社会」に呻吟する大勢の人がいる。その「期待」にこたえるのは容易ではない。日本国憲法のこのころを政治や社会のルールとして生かすことの大切さを痛感する毎日だ。今年も三足の草鞋をはいて、元氣。「憲法」、「法テラス」、「事件活動」。今年も三足の草鞋をはいて、元氣にやりたいと思う。そして、時には気ままな「旅」にでられ、おいしい地酒にめぐり合えれば、こんな幸せはないときとと思うにちがいない。「9条改憲」それは、庶民のこんなささやかなねがいがいすら奪うことになりかねない。戦争というものはそういうものだからだ。



(映画「鉄道員」のロケ地・富良野にて)

充実した一年を

弁護士 馬屋原 潔

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

昨年10月、私は法律家団体の役員に就任することになりました。その関係で東京の法律家団体の本部に行く機会も増え、多忙になってきています。しかし、本業に支障を来して依頼者の皆様の信頼を失うことのないよう、自らのスキルを一層高めるとともに、IT化も適切に採り入れて、皆様の御依頼に迅速に対応していきたいと思っております。

昨年の年末は明るいニュースがあまりなく、暗い年の頼だったように思います。今年も

戦争をさせない世代に

弁護士 白井 幸男

あけましておめでとうございます。とはいうものの、今年は何年になく、気持ちが晴れません。日本は今、急ピッチで軍国化の道をたどっているからです。

教育基本法の改正により、教育が国家の管理下に置かれ、「愛国心」教育が導入、強化されていくことになりました。また、防衛庁が防衛省に格上げされるとともに、これとセットで上程された自衛隊法改正により、自衛隊の「海外派遣」が例外的なものから本来的任務に格上げされました。自衛隊はもはや日本の防衛だけが目的の存在ではなく日本の防衛だけでなく、日本の平和憲法の理念は一体どこへ行っってしまったのでしょうか？

今年、私達団塊の世代がいつせいに定年を迎え始めます。

団塊世代は「戦争を知らない世代」と言われてきましたが、「戦争をさせない世代」にならなければ、と思います。



イノシシの年に

弁護士 藤野 善夫

丁亥(ひのと)・(タイガイ)の年が始まった。教育基本法の改悪、日本国憲法を歪めるといわが国の基本的方向を大きく変える政治的な流れが、進められています。私からみれば、社会の発展方向に逆行した動きで、福祉が一層切り捨てられて、私たちの暮らしがますます厳しくなる許せない動きと感ずります。

大企業の業績は回復し、戦後のいざなぎ景気を上回る経済の状況だとか報道されていますが、経費削減、「リストラ」の効果による「増収」の結果のようで、働く者のふところは、一向に暖かくなった感じはしません。企業の景気が好くなったとされる一方で、法人税の税率を減じる、他方、消費税は上げる、社会保険の負担は増やす動きがあります。

今年は12年に一度の統一地方選挙と参議院議員選挙を迎える「選挙の年」です。私たちの暮らしとこの国の進路を好い方向にする主権者の意思を、イノシシの年に示しましょう。



暗雲を吹き払う年に

弁護士 中丸 素明

新年らしく、めでたい話を二つ。その1-母校が春の甲子園(センバツ大会)に出場間違いなし。佐賀県立小城高等学校といっても、誰も知らないでしょう。設立が明治32年(1899年)だそうですから、もうすぐ110年を迎える古い高校です。九州銘菓「小城羊羹」の街にあり、「寅さんシリーズ」で藤久美子さんが通っていた高校にもなったことがありました。昭和53年に夏の甲子園に出たことはありますが、「センバツ」はおそらく初めてのこと。その2-その母校からプロ野球の選手が誕生しました。ドラフト会議で福岡ソフトバンク球団に、ピリの方で指名されました。私が知る限り、初のプロ選手です。

教育基本法、防衛省昇格法、労働法制、そして憲法改悪の動きと、「めでたい」どころか、「背筋が寒くなる」ような策動が、ますます強まっています。この国と次世代を生きる子ども達の未来はどうなってしまうのか。暗たんたる気持ちに陥りがちですが、希望をもって立ち向うしかありません。みんなで、もっともっと怒ろう! 声を出そう! 行動で示そう! この1年が、暗雲を吹き払う年になるように、ボクも微力を尽くします。





るいニュースに接することができるだけでなく、個人的にもいいことがあり、明るい一年になればと思っています。

また、健康にも留意して、今年一年、公私ともに充実した年にしたいと思っています。

皆様にとっても御依頼になった件がすばらしい結末を迎えて、今年一年明るく過ごせるように、ともに手をたずさえてがんばっていきましょう！

それでは本年もよろしくお願いたします。



新春のご挨拶に代えて

弁護士 有坂 修 一

夏目漱石「私の個人主義」を読む

これは高校の現代国語の教科書に載っていた記憶がありますが、その時はあまり印象に残りませんでした。しかし今回読み直してみると、流石講演としての話の運びもうまく、おおいに引き込まれました。



「自己の個性の発展を思うならば同時に他人の個性も尊重すべきこと、自己の権力を使用しようと思うならば、それに付随する義務を心得るべきこと、自己の金力を示そうと願うならば、それに伴う責任を重んじるべきこと」と内容は平易・穏健なものです。現在も肝に銘ずべきことかと思いました。

また「そう朝から晩まで国家国家と云ってあたかも国家に取りつかれたような真似はとうてい我々にできる話ではない(中略)事の起こらない先に火事装束をつけて窮屈な思いをしながら、町中中駆け歩くと一般である」など、明治憲法・教育勅語の元での、まして皇族や旧華族(皇室の藩屏)の学校と云われた学習院での講演であったことを考えると、大胆かつ痛快な講演であったと思います。

「私の個人主義」(筑摩文庫の漱石全集第10巻に採録)是非新春にご一読を。

方向音痴

弁護士 宮腰 直子

私は、小さいころから船橋市に住んでいますが、学生のころ、自宅から西船橋の図書館に自転車で行くことがありました。片道20分くらいです。自宅から図書館へ行く途中に行田団地の脇を通るので、行きは団地が右側に見えました。帰りも同じ道を通るつもりで行田団地を左側に見て道を進みました。ずいぶん大きな団地だな、と思いながら自転車をこぎ続けました。行けども行けども団地から抜け出せません。いつまで行っても似たような風景ばかりです。30分くらい自転車を漕いで、ようやく同じ場所をぐるぐる回っていることに気づき、悲しいやら情けないやら。行田団地は周囲を大きな環状の道が取り囲んでいるのです。

この場所が、60年以上前には、旧海軍の東京無線電信所船橋送信所の跡で、太平洋戦争の口火を切った「ニイタカヤノボレ一二〇八」という暗号電文を発信した場所だったということは近年になって知りました。

あなときは、本当に同じ場所をぐるぐる回って、なんだか魔法にかかったみたいでした。方向音痴にならないよう正しい道を進みたいものです。



国民は安倍政権に白紙委任をしたわけではない

弁護士 岩橋 進 吾

新年明けましておめでとうございます。今年は参議院選挙があります。安倍政権に白紙委任をした訳ではないことを明確に示す必要があるでしょう。

安倍政権が誕生をしましたが、国会での多数を背景に、国民と議論することもなく国民に説明をすることもなく強行する政権であることが短期間のうちに明らかになりました。第一に、税制調査会は、好景気に沸く大企業に一層の減税を保障し、ワーキングプアや生活保護を受給できずに餓死する人が次々と出てくる低所得者層には一層の負担増を決めました。格差を一層増大させることを何の議論もなく押し通そうとしているのです。第二に、教育基本法「改正」問題では、いじめを把握していないとか、未履修の問題に象徴されるように政府や教育委員会の機能不全が明らかになっただけではなく、タウンミーティングでのやらせ問題のように、世論操作をしていたにもかかわらず、それらの問題は未解決のまま、衆議院では教育基本法「改正」案を強行採決したのです。このような安倍政権に対して、国民の声を聞くのが民主主義であることを示す必要があるでしょう。



以上

新年にあたり

弁護士 高橋 高子

屋久島を昨年歩きました。屋久島は九州の南端から約65キロメートル南に向った洋上にあります。世界遺産登録地があります。

この世で1000年以上も生きている屋久杉。台風や伐採などで巨木が倒れて光のあたる明るい場所ができると、次の世代の若い屋久杉が誕生し、世代交代がくりかえされている森。杉はゆつくりと成長し、命が受け継がれています。屋久島は水がめぐり、木々や動物の命が大切にされています。

わずかに数日でも、屋久島の原生林に身を置くと、心が癒され、生きていることに感動しました。

ところが、帰ると屋久島の余韻さめやらぬ間に「格差社会の何が悪いのか」と格差をめぐる議論が大きく聞こえてきて、とても気になりました。

格差が広がった時、日本はどのような国になるのでしょうか。命が大切にされない政治が、さらに強くなるでしょう。

しかし、今は民主権の時代です。個人が尊重され、国のあり方や政治は、国民が決める、主権は国民にあるのです。

新年にあたり、じっくりと国民主権の意義を考えたものです。



最後まであきらめない

弁護士 井出 達 希

昨年は、教育基本法の改正に反対する運動で忙しい一年でした。この原稿を書いている現在、明日にでも教基法が強行採決されて改正される可能性が高い状況なので、新年には、現在の教育基本法がないかもしれません。日本国憲法の理想を教育の力で実現するということをうたい、準憲法とまで言われる現在の教基法を守る運動は、憲法改正の前哨戦といわれてきました。私は、この問題に平成15年より取り組んできましたが、運動を通じて教員の方々を始め、多くの方々と知り合うことができました。皆も与党の圧倒的多数の中で、劣勢であることは百も承知でありながら、最後まであきらめずに元気に闘ってきました。弁護士会も援護射撃してくれました。このつながりを、憲法改正反対の運動につなげていきたいものです。今年も元気にいきましょう。



めでとうございます

生涯現役で

弁護士 守川 幸男

新年おめでとうございます。
新年早々おめでたい話をしたいところですが、今の世の中あきれほどひどくなっていますね。そこで、投げやりになったりあきらめるのか、それとも、広い視野に立ち先を見て展望を持つのかは、性格にもよりますが、多くは人生観や学習の継続にかかっています。

「とき」の概念を認識できるのは人間だけでしょうか。「美しい」ばかりですが、「美しく齢を重ねる」という表現はすてきですね。1日、1週間、1か月、1年、10年、(中略)、60年と、節目をもうけて気持ちを入れかえる場合と、通過点にすぎない、と考える場合があります。

いつまでも気持ちは若く前向きに、ペースはわずかながら落ちるとしても、仕事も活動もスポーツも生涯現役であと数十年と、挑戦の気持ちは忘れないことにしています。今年もよろしくお祈りします。



「60年」「40年」

弁護士 高橋 勲

昨年10月より業務を開始した日本司法支援センターは「法テラス」といわれる。「法で社会を照らす」というねがいがこめられている。私はその千葉地方事務所長。「法」のなかで最も大切な法こそ最高法規としての日本国憲法だ。「法テラス」から今日のこの国の社会をみると、そこには「格差社会」に呻吟する大勢の人がいる。その「期待」にこたえるのは容易ではない。日本国憲法のこのころを政治や社会のルールとして生かすことの大切さを痛感する毎日だ。今年も三足の草鞋をはいて、元氣。「憲法」、「法テラス」、「事件活動」。今年も三足の草鞋をはいて、元氣にやりたいと思う。そして、時には気ままな「旅」にでられ、おいしい地酒にめぐり合えれば、こんな幸せはないときとと思うにちがいない。「9条改憲」それは、庶民のこんなささやかなねがいがいすら奪うことになりかねない。戦争というものはそういうものだからだ。



充実した一年を

弁護士 馬屋原 潔

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

昨年10月、私は法律家団体の役員に就任することになりました。その関係で東京の法律家団体の本部に行く機会も増え、多忙になってきています。しかし、本業に支障を来して依頼者の皆様の信頼を失うことのないよう、自らのスキルを一層高めるとともに、IT化も適切に採り入れて、皆様の御依頼に迅速に対応していきたいと思っています。

昨年の年末は明るいニュースがあまりなく、暗い年の頼だったように思います。今年も

イノシシの年に

弁護士 藤野 善夫

丁亥(ひのと)・(タイガイ)の年が始まった。教育基本法の改悪、日本国憲法を歪めるといわが国の基本的方向を大きく変える政治的な流れが、進められています。私からみれば、社会の発展方向に逆行した動きで、福祉が一層切り捨てられて、私たちの暮らしがますます厳しくなる許せない動きと感ずります。

大企業の業績は回復し、戦後のいざなぎ景気を上回る経済の状況だとか報道されていますが、経費削減、「リストラ」の効果による「増収」の結果のようで、働く者のふところは、一向に暖かくなった感じはしません。企業の景気が好くなったとされる一方で、法人税の税率を減じる、他方、消費税は上げる、社会保険の負担は増やす動きがあります。

今年は12年に一度の統一地方選挙と参議院議員選挙を迎える「選挙の年」です。私たちの暮らしとこの国の進路を好い方向にする主権者の意思を、イノシシの年に示しましょう。



戦争をさせない世代に

弁護士 白井 幸男

あけましておめでとうございます。とはいうものの、今年は何年になく、気持ちが晴れません。日本は今、急ピッチで軍国化の道をたどっているからです。

教育基本法の改正により、教育が国家の管理下に置かれ、「愛国心」教育が導入、強化されていくことになりました。

また、防衛庁が防衛省に格上げされるとともに、これとセットで上程された自衛隊法改正により、自衛隊の「海外派遣」が例外的なものから本来的任務に格上げされました。自衛隊はもはや日本の防衛だけが目的的存在ではなく、日本の防衛だけでなく、日本の平和憲法の理念は一体どこへ行ってしまったのでしょうか？

今年、私達団塊の世代がいつせいに定年を迎え始めます。団塊世代は「戦争を知らない世代」と言われてきましたが、「戦争をさせない世代」にならなければ、と思います。



暗雲を吹き払う年に

弁護士 中丸 素明

新年らしく、めでたい話を二つ。その1-母校が春の甲子園(センバツ大会)に出場間違いなし。佐賀県立小城高等学校といっても、誰も知らないでしょう。設立が明治32年(1899年)だそうですから、もうすぐ110年を迎える古い高校です。九州銘菓「小城羊羹」の街にあり、「寅さんシリーズ」で藤久美子さんが通っていた高校にもなったことがありました。昭和53年に夏の甲子園に出たことはありますが、「センバツ」はおそらく初めてのこと。その2-その母校からプロ野球の選手が誕生しました。ドラフト会議で福岡ソフトバンク球団に、ピリの方で指名されました。私が知る限り、初のプロ選手です。

教育基本法、防衛省昇格法、労働法制、そして憲法改悪の動きと、「めでたい」どころか、「背筋が寒くなる」ような策動が、ますます強まっています。この国と次世代を生きる子ども達の未来はどうなってしまうのか。暗たんたる気持ちに陥りがちですが、希望をもって立ち向うしかありません。みんなで、もっともっと怒ろう! 声を出そう! 行動で示そう! この1年が、暗雲を吹き払う年になるように、ボクも微力を尽くします。

